

2021年度（2022年3月期） 決算説明会



2022年5月30日

目次

Part I . 決算実績・業績予想	p. 2
Part II . 中期経営計画の進捗状況	p. 20
Appendix . 会社紹介、関係会社事業紹介	p. 29



Part I . 決算実績・業績予想

1. 2021年度 決算実績

① 連結損益計算書

- 各セグメントで前期からの需要回復を受け増収増益となり、概ね予想水準での着地。
- 原材料価格の上昇により、売上原価率は1pt悪化（2020年度：69.7%→2021年度：70.6%）。

(単位：百万円、%)	2020年度	2021年度		
	通期実績	通期実績	増減額	増減率
売上高	63,160	66,948	+ 3,788	+ 6.0%
売上総利益	19,165	19,658	+ 493	+ 2.6%
販売費及び一般管理費	16,336	16,474	+ 138	+ 0.8%
営業利益	2,828	3,183	+ 354	+ 12.5%
経常利益	3,268	3,465	+ 196	+ 6.0%
親会社株主に帰属する 当期純利益	1,968	2,031	+ 63	+ 3.2%
国産ナフサ（円/KL）	31,325	56,850	+ 25,525	+ 81.5%

1. 2021年度 決算実績

②設備投資・減価償却費・研究開発費

- 2020年度は技術センター建設費、中国工場建設費により投資額が増加しており、設備投資額は前期比で大幅に減少。減価償却費は上記の要因により増加。

(単位：百万円、%)	2020年度	2021年度		
	通期実績	通期実績	増減額	増減率
減価償却費	2,426	2,545	+ 118	+ 4.9%
設備投資額	3,213	1,972	△ 1,241	△ 38.6%
研究開発費	1,947	1,969	+ 21	+ 1.1%

1. 2021年度 決算実績

③セグメント別売上高

- 国内塗料、海外塗料は、工業分野を中心にコロナ影響から需要の持ち直しにより、増収。
- 照明機器は、東京五輪期間の工事中断もあったものの、コロナ影響からの回復は継続し、増収。

(単位:百万円,%)	2020年度	2021年度		
	通期実績	通期実績	増減額	増減率
売上高	63,160	66,948	+ 3,788	+ 6.0%
国内塗料	47,232	49,622	+ 2,389	+ 5.1%
海外塗料	5,486	6,939	+ 1,453	+ 26.5%
照明機器	7,239	7,656	+ 416	+ 5.8%
蛍光色材	1,117	1,223	+ 106	+ 9.5%
その他	2,084	1,507	△ 577	△ 27.7%

1. 2021年度 決算実績

④国内分野別・海外地域別売上高

- 国内：一般分野は需要が堅調に推移、工業分野は下期に減速するも前期比では需要が持ち直し、増収。
- 海外：前期は工場稼働停止期間があったこと及び各地域における自動車生産台数の回復により、増収。

(単位:百万円,%)	2020年度	2021年度		
	通期実績	通期実績	増減額	増減率
国内塗料	47,232	49,622	2,389	+ 5.1%
一般分野	17,541	18,531	990	+ 5.6%
工業分野	16,390	17,359	968	+ 5.9%
その他分野	3,709	3,958	249	+ 6.7%
子会社・調整等	9,590	9,772	181	+ 1.9%
海外塗料	5,486	6,939	1,453	+ 26.5%
東南アジア	3,809	4,929	1,119	+ 29.4%
中国	856	1,017	160	+ 18.7%
北中米	819	992	173	+ 21.1%

1. 2021年度 決算実績

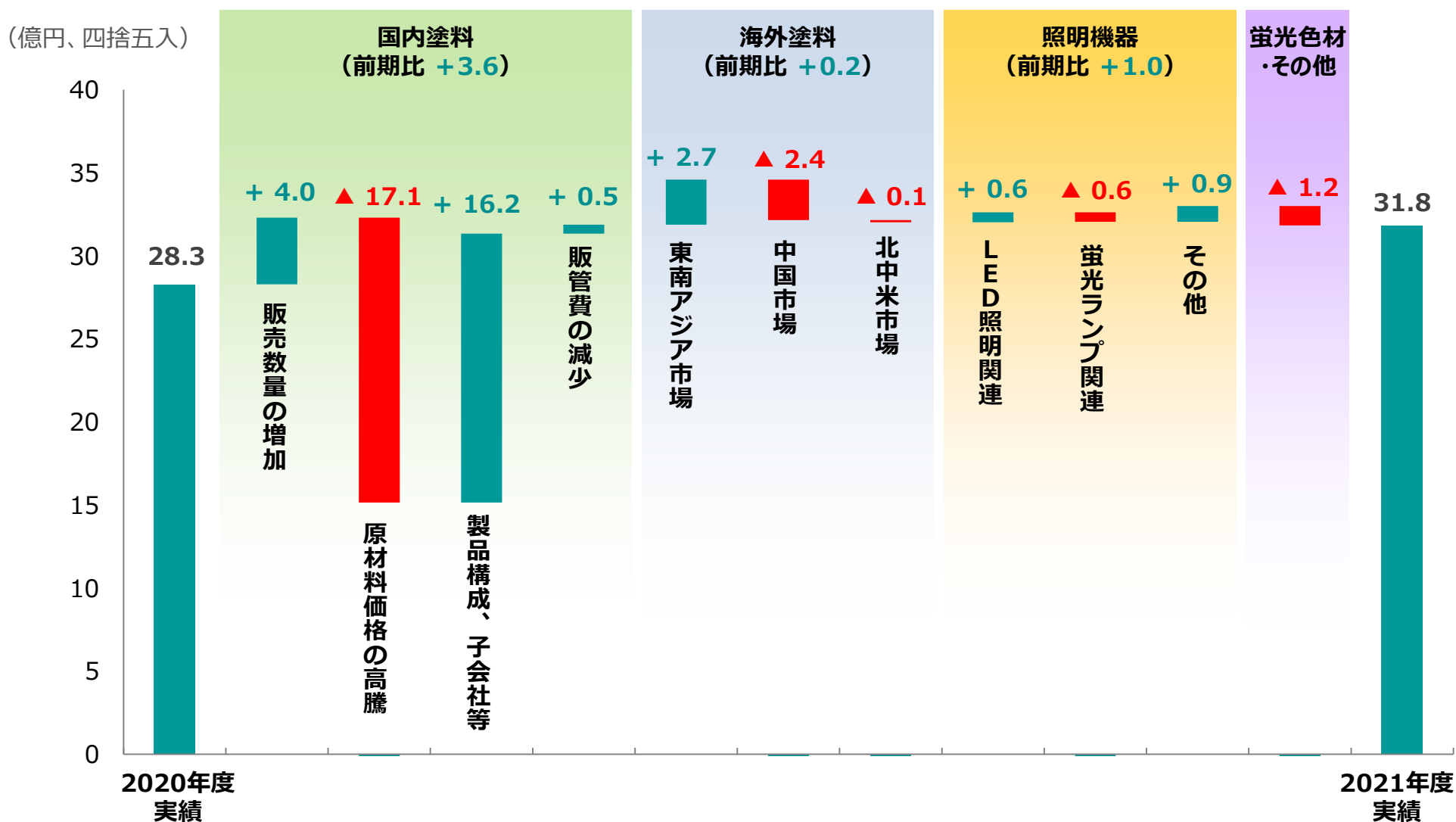
⑤セグメント別営業利益

- 国内塗料は、原材料価格の上昇の影響を強く受けたが、販売数量の増加及び価格是正により増益。
- 海外塗料は、原材料価格の上昇影響のほか、工場移管が過渡期にあった中国において費用が増加したため、増益幅が縮小。

(単位:百万円,%)	2020年度	2021年度		
	通期実績	通期実績	増減額	増減率
営業利益	2,828	3,183	+ 354	+ 12.5%
国内塗料	1,631	1,990	+ 358	+ 22.0%
海外塗料	221	236	+ 15	+ 6.9%
照明機器	479	577	+ 97	+ 20.2%
蛍光色材	54	46	△ 8	△ 15.1%
その他	257	114	△ 142	△ 55.4%
調整額	183	218	+ 34	+ 18.9%

1. 2021年度 決算実績

⑥ 連結営業利益（実績）の増減要因



1. 2021年度 決算実績

⑦ 連結貸借対照表

(単位：百万円)	2021年3月末	2022年3月末	増減額
流動資産	33,073	34,773	+ 1,699
現金及び預金	6,983	6,777	△ 205
受取手形、売掛金及び契約資産	15,739	16,411	+ 672
棚卸資産	8,930	10,228	+ 1,298
その他流動資産	1,420	1,355	△ 65
固定資産	52,691	52,932	+ 240
有形固定資産	25,877	25,591	△ 285
無形固定資産	424	374	△ 49
投資その他の資産	26,389	26,965	+ 576
資産合計	85,765	87,705	+ 1,940
負債合計	34,900	35,713	+ 813
(借入金残高)	(5,900)	(4,250)	(△ 1,650)
純資産合計	50,865	51,991	+ 1,126
負債純資産合計	85,765	87,705	+ 1,940

1. 2021年度 決算実績

⑧ 連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)	2020年度	2021年度	増減額
営業活動によるキャッシュ・フロー	3,641	3,364	△ 277
投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 2,325	△ 966	+ 1,359
財務活動によるキャッシュ・フロー	499	△ 2,841	△ 3,340
現金及び現金同等物に係る換算差額	△ 142	186	+ 328
現金及び現金同等物の増減額	1,672	△ 257	△ 1,930
現金及び現金同等物の期首残高	5,064	6,736	+ 1,672
現金及び現金同等物の期末残高	6,736	6,479	△ 257

2. 事業環境認識

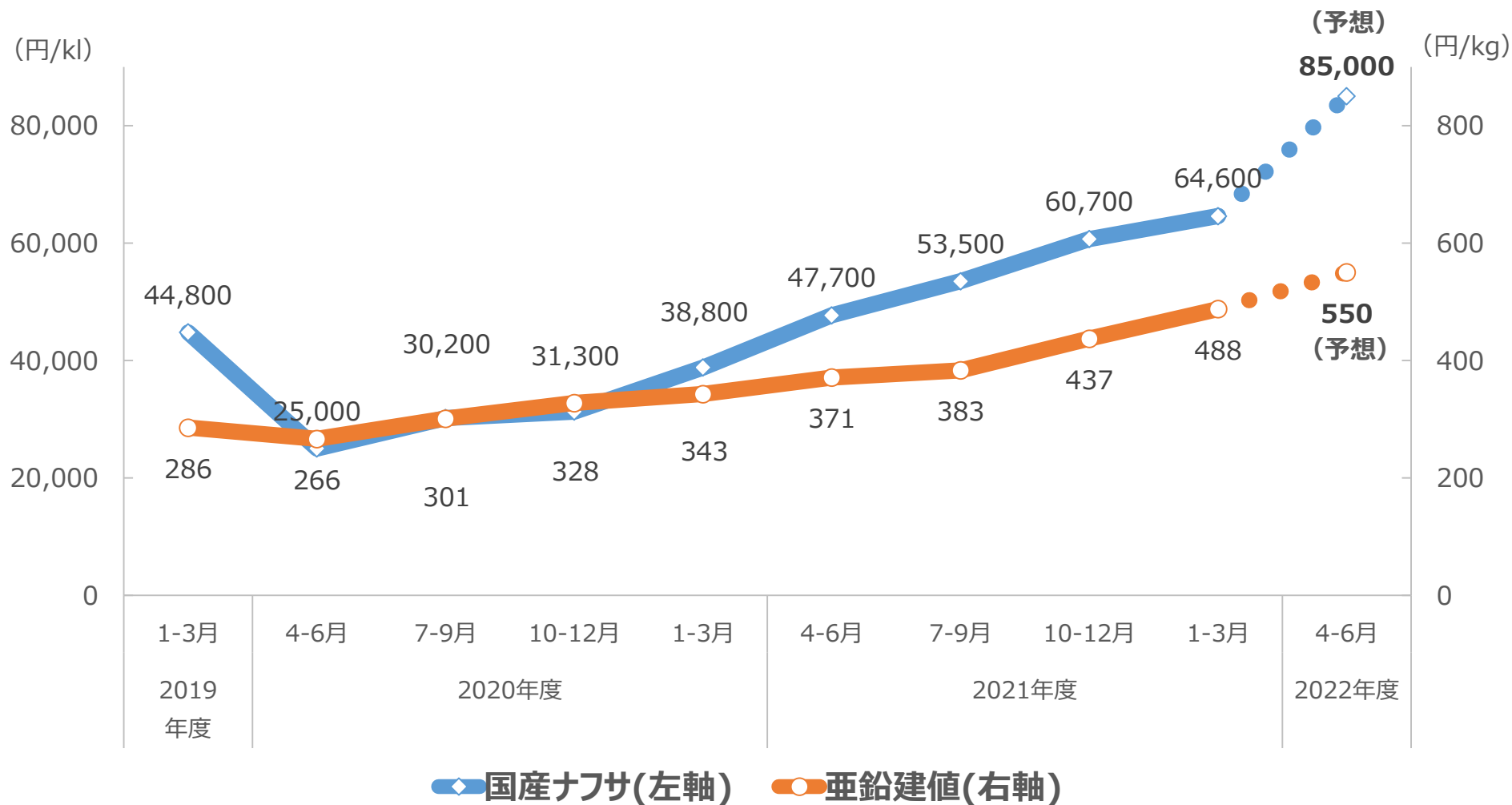
① 2022年度における各セグメントの見通し

国内塗料	<ul style="list-style-type: none">■ 一般分野は、構造物分野を中心に堅調な需要見込み。■ 工業分野は、半導体不足による自動車産業や電気機器向けの需要停滞が継続も、下期にかけて徐々に需要回復の見通し。■ 石化製品(樹脂、溶剤)、亜鉛、酸化チタン等の主要な原材料価格が軒並み上昇。
海外塗料	<ul style="list-style-type: none">■ 半導体不足による自動車の生産調整が継続中で、下期の回復も不透明な状況。■ ゼロコロナ政策による中国国内サプライチェーンの混乱と他国への影響を注視。■ 中国では、上海工場での生産を2021年12月をもって終了し、浙江工場へ集約完了。■ 原材料価格の上昇及び海上輸送費の高騰によるコスト増。
照明機器	<ul style="list-style-type: none">■ 建材不足や輸送費の上昇等に起因する商業施設の工期遅れが懸念されるものの、停滞していた首都圏再開発の再開により需要回復を見込む。■ アルミや電子部品等の原材料価格の上昇。■ 蛍光ランプ市場は緩やかな減少が継続。
共通	<ul style="list-style-type: none">■ ウクライナ情勢、上海ロックダウンによる原材料価格及び物流費の上昇に対し、製品価格の是正を強く推し進める。

2. 事業環境認識

② 主要な原材料価格の見通し

- 緊迫化するウクライナ情勢により、原油相場は上昇の一途。2022年度は高値推移となる想定。
- 中国における電力規制や上海ロックダウン等の影響により、亜鉛建値も高騰。



3. 2022年度 業績予想

① 連結損益計算書（予想）

- 各セグメントにおいて原材料価格の上昇に対する価格是正を実行し、38億円の増収を見込む。
- 一方で原材料価格の上昇による影響を全てカバーすることは難しく、売上原価率は約1ptの悪化を見込む。

(単位：百万円)	2021年度	2022年度		
	通期実績	通期予想	増減額	増減率
売上高	66,948	70,800	+ 3,851	+ 5.8%
売上総利益	19,658	19,940	+ 281	+ 1.4%
販売費及び一般管理費	16,474	16,640	+ 165	+ 1.0%
営業利益	3,183	3,300	+ 116	+ 3.7%
経常利益	3,465	3,550	+ 84	+ 2.4%
親会社株主に帰属する 当期純利益	2,031	2,000	△ 31	△ 1.6%
国産ナフサ（円/KL）	56,625	85,000	+ 28,375	+ 50.1%

3. 2022年度 業績予想

②設備投資・減価償却費・研究開発費（予想）

- 大型投資の予定はなく、減価償却費、設備投資、研究開発費ともに概ね前期並みの水準となる予定。

(単位：百万円、%)	2021年度	2022年度		
	通期実績	通期予想	増減額	増減率
減価償却費	2,545	2,450	△ 95	△ 3.7%
設備投資額	1,972	2,000	+ 27	+ 1.4%
研究開発費	1,969	2,000	+ 30	+ 1.6%

3. 2022年度 業績予想

③セグメント別売上高（予想）

- 国内塗料、海外塗料、照明機器ともに数量ベースでは微増にとどまるが、価格是正による増収を図る。
- 海外塗料は、上半期は半導体不足の影響による生産調整が継続する見通し。

(単位:百万円,%)	2021年度	2022年度		
	通期実績	通期予想	増減額	増減率
売上高	66,948	70,800	+ 3,851	+ 5.8%
国内塗料	49,622	52,690	+ 3,067	+ 6.2%
海外塗料	6,939	7,100	+ 160	+ 2.3%
照明機器	7,656	8,150	+ 493	+ 6.4%
蛍光色材	1,223	1,230	+ 6	+ 0.5%
その他	1,507	1,630	+ 122	+ 8.2%

3. 2022年度 業績予想

④国内分野別・海外地域別売上高（予想）

- 国内：全塗料分野で価格是正を進めるが、概して、一般分野では主に価格是正により増収を見込み、工業分野では主に数量回復により増収を見込む。
- 海外：東南アジア、北中米では自動車の生産調整の影響が残るが、価格是正により増収を見込む。中国は上海ロックダウンの影響はあるが、産業機械向け販売を中心に増収を図る。

(単位:百万円,%)	2021年度	2022年度		
	通期実績	通期予想	増減額	増減率
国内塗料	49,622	52,690	+ 3,067	+ 6.2%
一般分野	18,531	20,000	+ 1,468	+ 7.9%
工業分野	17,359	18,550	+ 1,190	+ 6.9%
その他分野	3,958	3,920	△ 38	△ 1.0%
子会社・調整等	9,772	10,220	+ 447	+ 4.6%
海外塗料	6,939	7,100	+ 160	+ 2.3%
東南アジア	4,929	4,950	+ 20	+ 0.4%
中国	1,017	1,100	+ 82	+ 8.1%
北中米	992	1,050	+ 57	+ 5.8%

3. 2022年度 業績予想

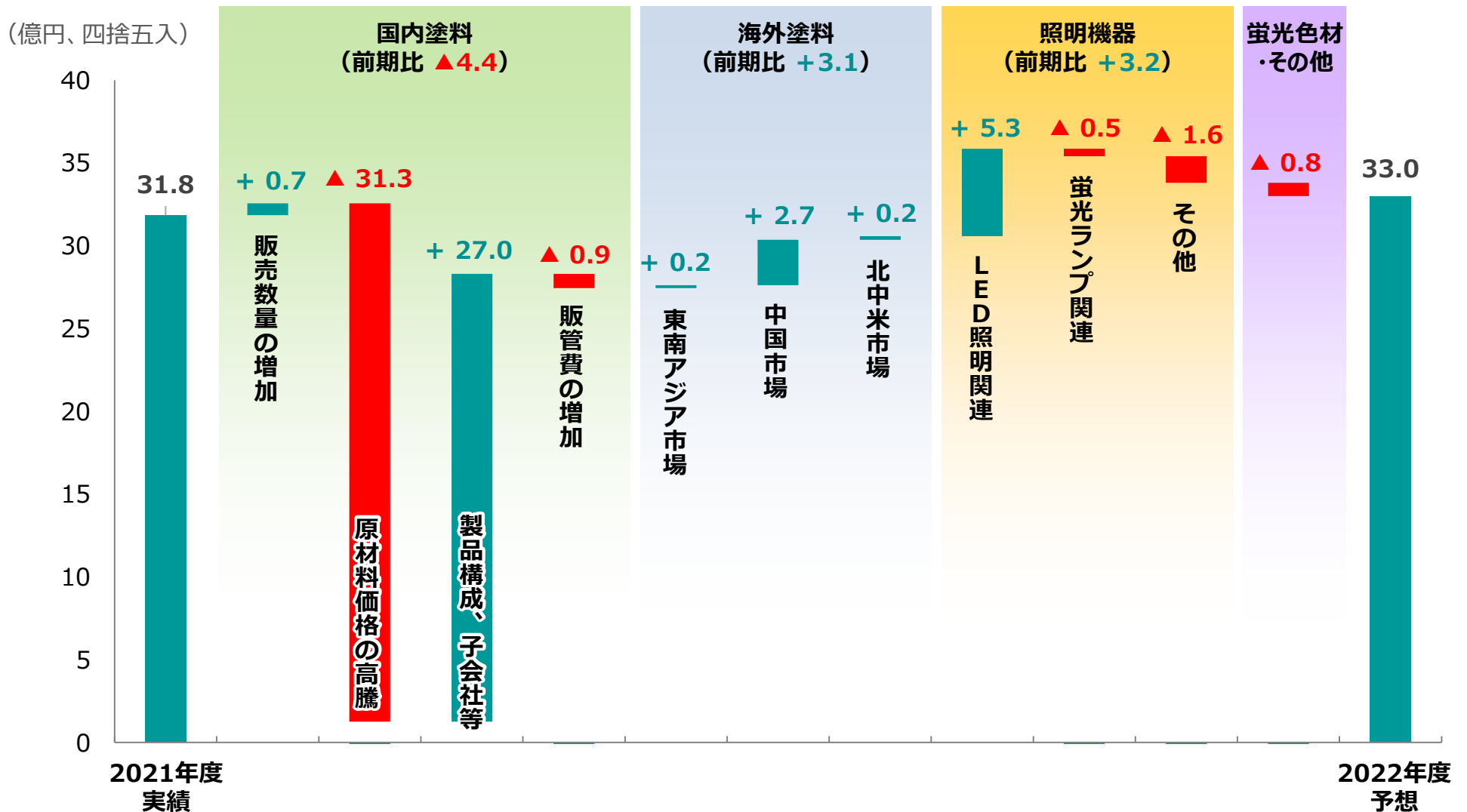
⑤セグメント別営業利益（予想）

- 国内塗料は、価格是正を推進するが原材料価格の上昇影響をカバーすることは難しく、減益の見通し。
- 海外塗料は、工場移管が完了した中国における赤字幅が縮小し、増益の見通し。

(単位:百万円,%)	2021年度	2022年度		
	通期実績	通期予想	増減額	増減率
営業利益	3,183	3,300	+ 116	+ 3.7%
国内塗料	1,990	1,550	△ 440	△ 22.1%
海外塗料	236	550	+ 313	+ 132.8%
照明機器	577	900	+ 322	+ 56.0%
蛍光色材	46	40	△ 6	△ 14.2%
その他	114	60	△ 54	△ 47.8%
調整額	218	200	△ 18	△ 8.4%

3. 2022年度 業績予想

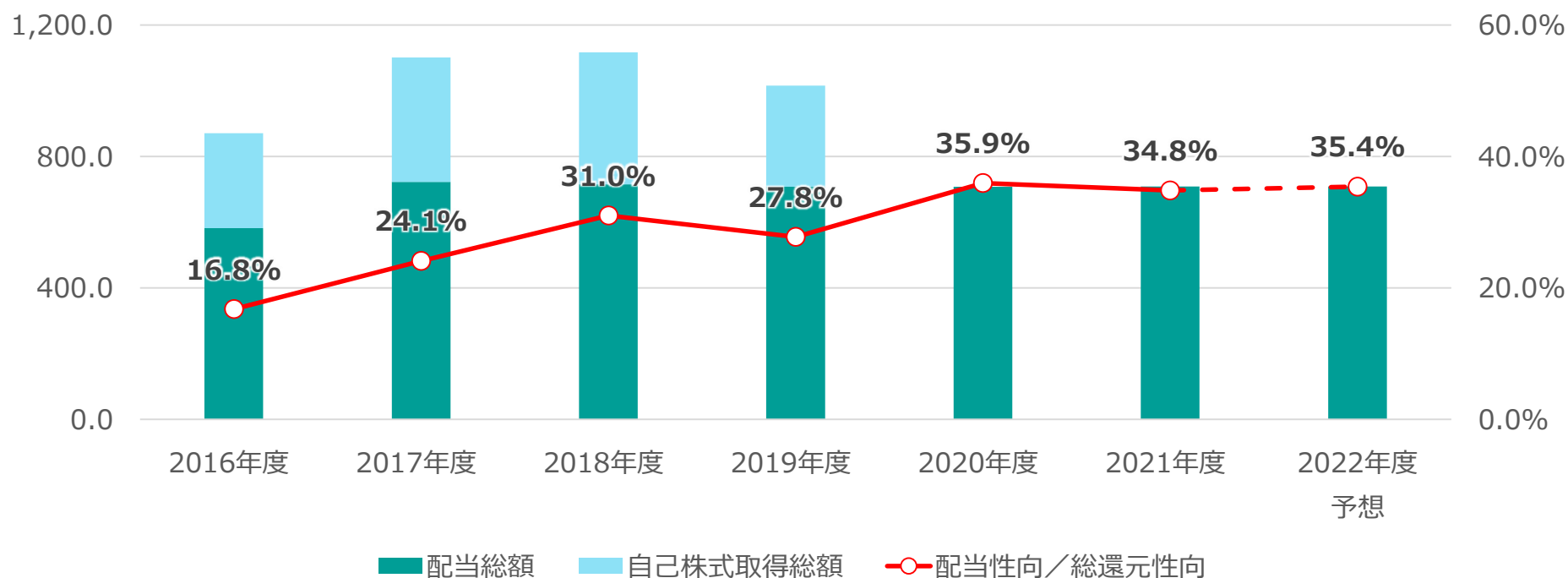
⑥ 連結営業利益（予想）の増減要因



4. 株主還元

- 一株当たり配当金は25円を維持の予定。

	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
一株当たり配当金	20円	25円	25円	25円	25円	25円	25円 (予定)
自己株式取得額	289百万円	379百万円	402百万円	308百万円	取得なし	取得なし	未定





Part II. 中期経営計画の進捗状況

1. 中期経営計画の概要

コンセプト

2029年度の創立100周年における「持続的成長力を持つ企業」の達成に向け、今中計期間において成長軌道を確立

基本施策	2021年度	2022年度	2023年度	
	通期実績	通期予想	通期目標	
1.提供価値の強化	売上高	66,948	70,800	75,000
	国内塗料	49,622	52,690	54,000
2.価格競争力の強化	海外塗料	6,939	7,100	8,200
	照明機器	7,656	8,150	9,400
	蛍光色材	1,223	1,230	1,300
	その他	1,507	1,630	2,100
3.販売体制の強化	営業利益	3,183	3,300	6,600
	国内塗料	1,990	1,550	3,600
4.労働生産性の向上	海外塗料	236	550	1,100
	照明機器	577	900	1,300
	蛍光色材	46	40	120
	その他	114	60	220
5.海外事業の強化	調整	218	200	260

2. 主要施策の進捗状況

① 提供価値の強化（技術センターの活用）

- 技術センターは収益貢献の創出フェーズへ移行。2021年度の総利益貢献は1.6億円（計画1.3億円）。
- 新たな課題に対応し、今期は利用循環性を高めることで、案件の更なる積み上げに取り組む。

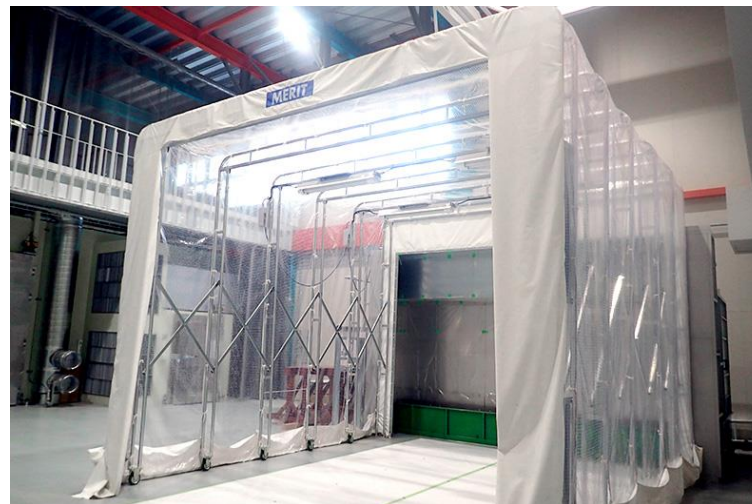
コーティング技術センター

- **顧客のライン条件を再現した試験塗装の提供**
⇒ 塗装条件の決定、仕上がりの判断等が可能となり、採用に至る。
- 今後、自動車以外の工業分野にも広く展開可能な液体塗装機械の導入を検討。



防食技術センター

- **様々な温湿度環境における工事現場の状況を再現した試験塗装の提供**
⇒ 塗装仕様の利点訴求、様々な環境下での使用条件の決定等が可能となり、採用に至る。
- 高速道路工事における防食シートの適用範囲を広げる検討の実施。

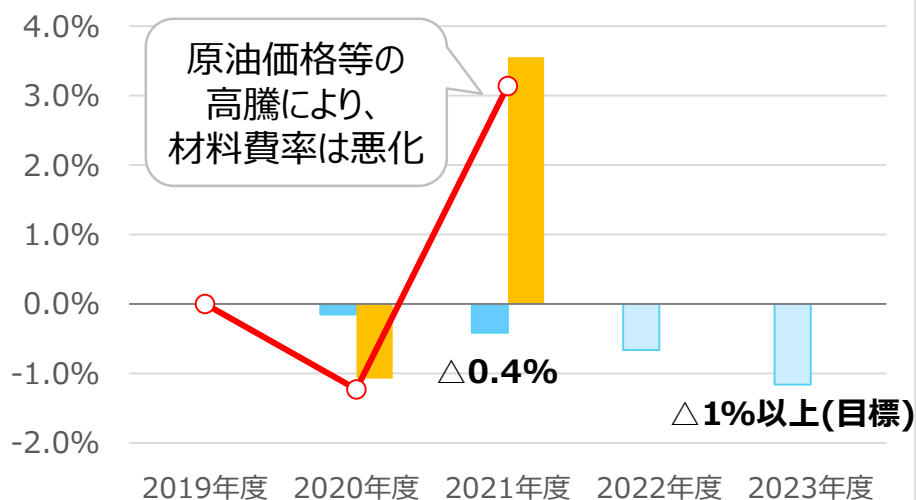


2. 主要施策の進捗状況

② 価格競争力の強化

- 原材料統合による大幅な原材料コスト低減に着手し、売上原価の大部分を占める変動費率の低下を図る。
- グループ全体の生産体制を最適化し、固定費の圧縮を図る。

原材料コスト低減



- 配合見直しやまとめ購買による低減効果は創出も、2021年度は原油高騰等の市況影響が甚大。
- 施策の継続により材料費高騰影響の緩和に努める。

製造コストの圧縮

- 2022/4/1付で、国内子会社2社の合併を実施。(存続会社:日塗化学、吸収会社:ビーオーケミカル)
- 合わせて、2社の塗料製造ラインをグループ内の別拠点への移管を完了。

合併

日塗化学(株)戸畑事業所

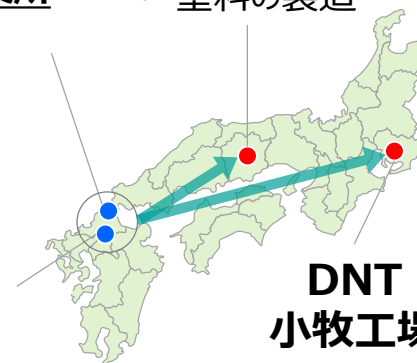
- ・ 樹脂及び塗料の製造、販売 (北九州市)

ビーオーケミカル(株)

- ・ 塗料及び接着剤の製造、販売 (福岡県糟屋郡)

岡山化工(株)

- ・ 塗料の製造




DNT
小牧工場

2. 主要施策の進捗状況

③ 販売体制の強化

- 国内におけるトップライン拡大に向け、営業情報のグループでの組織共有に向けた仕組みづくりを推進するとともに、販売ネットワークの拡充により、販売力の底上げを図る。

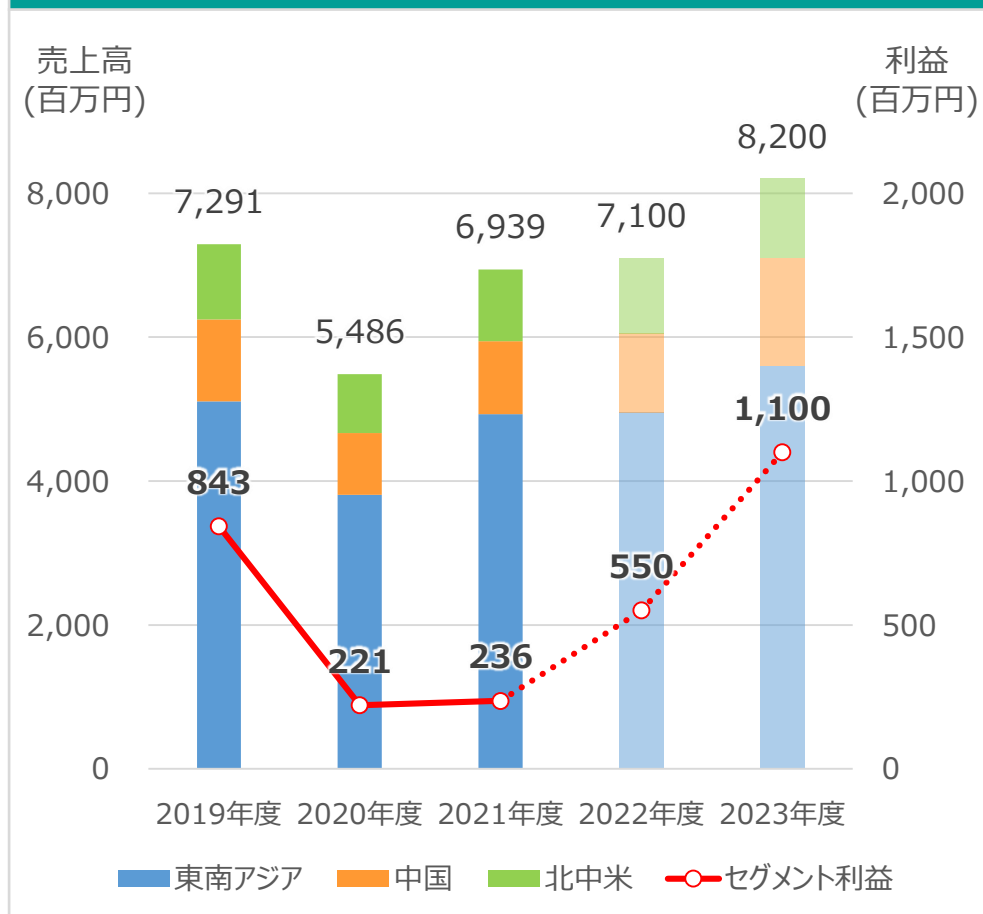
	取り組み状況
営業情報のグループ組織共有	<ul style="list-style-type: none">■ 営業支援システム導入による顧客・物件情報の円滑な共有。■ 大阪・関西万博、IR関連施設、都市再開発や競技場新設・改修といった大型物件をターゲットとして分野をまたいだ受注活動に注力。■ 塗料業界におけるDXを活用した受発注システム導入の支援を開始。
販売店ネットワーク拡充強化	<ul style="list-style-type: none">■ 2020年後半に国内販売代理店30社超へヒアリングを実施。 ⇒ その後、新型コロナウイルス感染症の流行状況に鑑みつつ訪問活動を継続中。■ DNT・販売代理店双方の課題を整理のうえ販売代理店に対するリレーション強化や販促方法の改善検討。■ 2021年度に一部商流の見直しを実施。 

2. 主要施策の進捗状況

④ 海外事業の強化

- 新工場への事業移管に時間とコストを要した中国事業の再建が最重要課題。
- 東南アジア、北中米市場では自動車部品を軸に、新規取引の獲得に注力。

地域別売上高とセグメント利益



中国市場

- 浙江の新工場は、2022年1月までに危険化学品(溶剤系塗料)を含め、全ての営業品目において営業、生産許可を取得。
- 環境規制強化に対し、**粉体塗料や水系塗料等の環境対応製品の拡販**に注力。

東南アジア市場

- タイでは**自動車部品向け新規獲得**活動に注力し、一般塗料ではプラント設備メンテナンス用の市場を開拓。
- マレーシアではアウトドア製品及び建材向け塗料の拡販、インドネシアでは自動車部品向け塗料の拡販。

北中米市場

- **日系以外の海外自動車メーカーの部品向け取引**の拡充。
- 競争力強化に向けた製造品質レベルの向上や生産効率の改善検討。

2. 主要施策の進捗状況

⑤ 照明機器事業の強化

- 21年度からの業績回復に向け、「業容の拡大」とそれを支える「基本体質の強化」を両輪で進める。

新たな市場の開拓を含めた取引先基盤の拡充

- ① 市場開発プロジェクトを活用した**新市場の開拓と既存市場の拡充**
(製品組み込み照明市場、ホテル業界、オフィス照明市場、野菜・きのこ市場、UV除菌装置等)
- ② マーケティング・コミュニケーションを起点とした**発信力の強化・顧客訴求力の向上**
- ③ 新製品を活用した既存先へのシェアアップ

生産体制と製品開発体制のレベルアップ

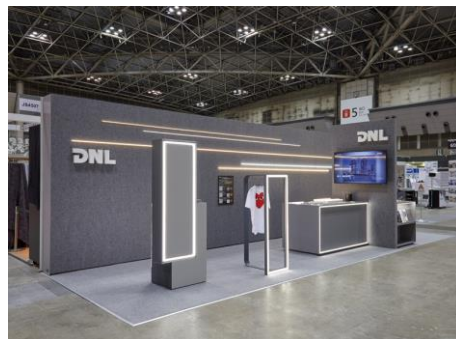
- ① 生産子会社における**プロセスイノベーションPJ(生産効率化)**の成果を発現
- ② 海外を含めた**グループ生産体制の見直し**
- ③ 外部連携を含めた**製品開発体制の強化とスピードアップ**
- ④ 物流体制の見直しと在庫管理のレベルアップ
- ⑤ 需要動向を踏まえた**蛍光灯生産体制の見直し**

既存市場の拡充



Hybrid展示会

発信力の強化



JAPAN SHOP 2022

新製品の活用・展開



くりんクリンシリーズ

プロセスイノベーション



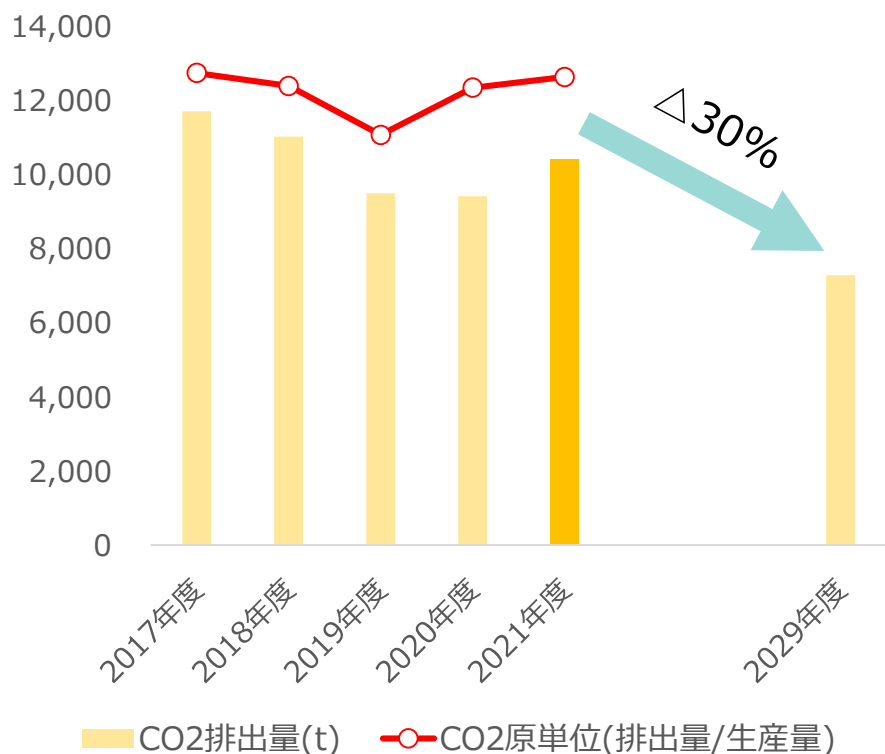
IoTを活用したコンベア生産ライン

3. ESG経営の推進

- サステナビリティ委員会で計数目標や取り組み内容を決定。今後各部門で具体策を検討し、実行していく。
- 当社の強みである重防食技術を生かし、LCA(ライフサイクルアセスメント)の考え方で環境負荷低減を追求。

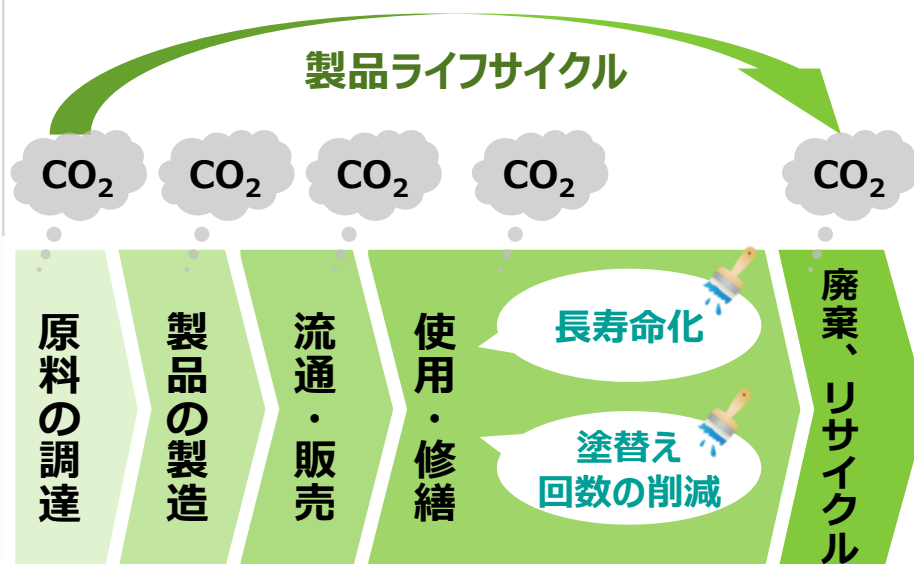
気候変動への配慮

- CO₂排出量を2029年度までに30%削減。
(2021年度比/Scope1+2)



事業による貢献

- 強みである重防食技術は、被塗物を長期的に保護することで、製品の長寿命化や**製品ライフサイクルの全体における環境負荷の低減**に貢献。
- 当社独自に環境対応製品を定義し、それらの拡販及び開発の推進。



4. トピックス

社会・環境へ配慮した製品群の拡充

塗装工事の省工程化（構造物分野）

■ 貼る重防食シート

『メタモルシート#1』

- 粘着層に亜鉛末を配合したシート状の製品であり、ジンクリッチペイントの代替となります。
- シートの上から上塗りも塗装できるため、改修工事における工数の削減が可能となります。



足場固定で生じるキズに



メタモルシート#1を貼付け



そのまま上塗り可能な簡単施工

抗菌・抗ウイルス製品ラインナップの充実化

- 新型コロナウイルス感染症の流行直後（2020年4月）に先行上市した一般建築用途に加え、2021年10月には工業分野の抗ウイルス性塗料を発売し、安全衛生ニーズの高まりへ対応

■ 抗ウイルス性焼付用クリアー塗料（工業分野）

『アンチウイルスクリアーZ』

<抗ウイルス性試験結果>



無加工塗料



アンチウイルスクリアーZ

[試験規格]
JIS R 1756 : 2020
(可視光応答形光触媒、
抗ウイルス、フィルム密着法)
[光源] 白色蛍光灯
[照射条件] 可視光500lx、
照射時間4時間

■ 抗菌・抗ウイルス性 室内用水性建築塗料

『COZY PACK Air』



- 光触媒の作用により、抗菌・抗ウイルス性能を発揮。
- 超低臭かつ揮発性有機化合物(VOC)を配合しておらず、営業中の店舗・オフィスでの塗装作業にも適しています。



Appendix. 参考情報

① 会社概要

商号	大日本塗料株式会社 / Dai Nippon Toryo Company,Limited
本社	〒542-0081 大阪府中央区南船場1-18-11 SRビル長堀
設立	1929年7月25日
資本金	8,827,369,650円（2022年3月31日現在）
上場証券取引所	東京証券取引所 プライム市場（証券コード：4611）
代表者	代表取締役社長 里 隆幸
従業員数	単体：702名 / 連結：2,194名（2022年3月31日現在）
主な事業内容	塗料、ジェットインクの製造、販売 各種塗装機器装置の販売、塗装工事等

② 主要事業の概要

- 当社コア技術の重防食塗料は、橋梁や鉄塔、産業プラントなどに塗装され、当分野では国内トップシェア
- 工業分野では顧客ニーズに細かく対応。インクジェットとの組み合わせにより、独自の価値を顧客へ提供

構造物分野



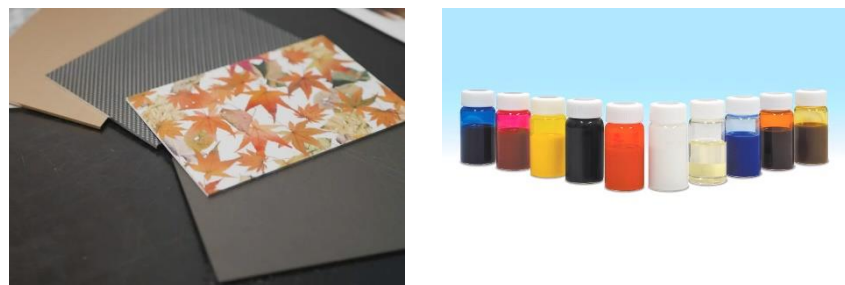
- 重防食塗装により鋼構造物を錆から長期的に保護
- 塗装工程の短縮や塗替えサイクルの長期化により、ライフサイクルコスト、ライフサイクルアセスメントを軽減し、持続可能な社会の実現に貢献

工業分野



- 顧客ニーズに沿った製品開発により、建材、鋼製家具、建機・農機、金属部材と幅広い分野をカバー

インクジェットプリント



- 塗料とインクの双方を手掛けており、インク的美観性と塗料の耐久性を両立したコーティングを実現

③ 連結業績推移

	2013年度	2014年度	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度
売上高	72,623	73,005	76,388	72,789	74,119	73,743	72,709	63,160	66,948
営業利益	4,274	4,428	5,858	6,533	6,588	6,039	5,547	2,828	3,138
経常利益	4,210	4,498	5,559	6,600	6,392	6,210	5,786	3,268	3,465
親会社株主に帰属 する当期純利益	2,592	2,756	3,614	5,199	4,573	3,604	3,662	1,968	2,031
純資産額	22,978	28,441	30,620	36,319	43,349	45,083	44,679	50,865	51,991
総資産額	65,291	69,252	67,732	70,374	76,155	78,880	76,817	85,765	87,705
1株当たり純資産 (BPS)	736.86	891.46	974.38	1,171.93	1,410.38	1,478.43	1,475.59	1,698.23	1,730.00
1株当たり当期純 利益 (EPS)	87.28	92.83	122.38	178.06	157.70	125.61	128.96	69.55	71.74
自己資本比率	33.5%	38.2%	42.3%	48.5%	53.5%	53.6%	54.4%	56.0%	55.9%
自己資本利益率 (ROE)	12.9%	11.4%	13.1%	16.6%	12.2%	8.7%	8.7%	4.4%	4.2%

①照明機器事業 (DNライティング(株)・秋田DNライティング(株))

- 様々な空間に対応する多彩な品揃え、お客様ニーズを実現するカスタマイズ力、多品種・高品質を支える自社生産体制により、多様な空間でお客様のニーズを満たす最高のあかり素材を提供し続ける照明専門メーカー

店舗照明



- 百貨店などの商業施設の商品や展示品の魅力を最大限に引き出す棚下照明

建築化照明



- オフィスやホテル、病院、学校、美術館、寺社仏閣などの間接照明、ファサード照明

紫外線除菌装置



- あらゆる場面の空間除菌にご利用いただける除菌装置

電気工事・設計管理

- 信頼性の高い電気設備工事を提供
- 計画、設計から施工まで一貫して取扱う



LED特殊光源



- 防水・防湿技術ノウハウを活かした植物育成用LEDモジュール

② 蛍光色材事業 (シンロイヒ^株)

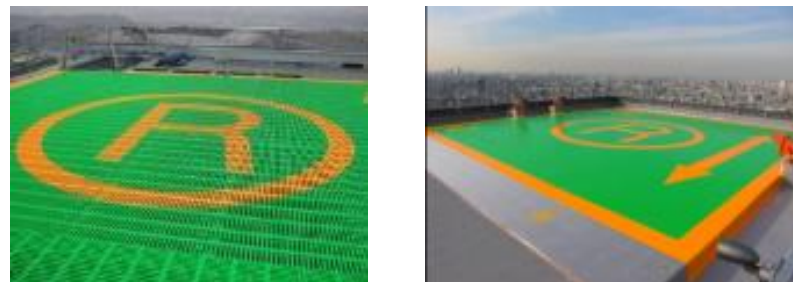
- 主力製品の蛍光顔料のほか、蛍光・蓄光・反射塗料や光フィルム、蓄光テープ、ルミライトカラー、UV発光不可視インク、蛍光ヘリサイン、安全防災用色材などを手掛ける国内唯一の蛍光色材の総合メーカー

安全防災マーキング



- 駅ホーム落下防止安全対策CPラインや、河川水害対策の量水標で使用されている蛍光塗料

ヘリポートサイン



- 高層ビルの災害時に高い視認性で効果を発揮する緊急離発着場専用の蛍光塗料

捺染、インキ用水性蛍光顔料



- 衣服など繊維の染色や印刷用途で使用されている蛍光顔料

テーマパークコーティング



- 耐候性、耐水性に強い水性アクリル樹脂を使用したデコラティブペイント

本日はありがとうございました

彩り企業、DNT。

IRに関するお問い合わせ先

大日本塗料株式会社 管理本部 経営企画室

.....
電話：06-6266-3103
e-mail：dnt-sou@star.dnt.co.jp

将来見通し等に関する注意事項

本資料につきましては投資家の皆様への情報提供のみを目的としたものであり、売買の勧誘を目的としたものではありません。

本資料における、将来予想に関する記述につきましては、当社の目標や予測に基づいており、確約や保証を与えるものではありません。また、将来における当社の業績が、現在の当社の将来予想と異なる結果になることがある点を認識された上で、ご利用ください。

また、業界動向や外部環境認識等に関する記述につきましても、信頼できると思われる各種データに基づいて作成していますが、当社はその正確性や完全性を保証するものではありません。

本資料は、投資家の皆様がいかなる目的にご利用される場合においても、ご自身のご判断と責任においてご利用されることを前提にご提示させていただくものであり、当社はいかなる場合においてもその責任を負いません。